

都市再生整備計画 事後評価シート  
近鉄八木駅周辺地区

平成23年2月

奈良県橿原市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	奈良県	市町村名	橿原市	地区名	近鉄八木駅周辺地区			面積	456ha
交付期間	平成18年度～平成22年度	事後評価実施時期	平成22年5月～平成23年3月		交付対象事業費	3,229百万円	国費率	0.4	

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名								
	基幹事業		橿原三号歩行者専用道路、畝傍駅前通り線、観光案内板、藤原宮跡多目的トイレ								
	提案事業		今井町空家活用、藤原宮跡ネットワークづくり、八木まちづくりネットワーク支援事業、市有地活用検討調査、コミュニティバス(社会実験)、市庁舎耐震補強、事業効果等評価調査、駅前観光交流センター								
	当初計画から削除した事業		事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	基幹事業		地域生活基盤施設:横大路街角広場整備、市役所街角広場整備、情報通信施設、藤原宮跡駐車場整備 高質空間形成施設:駅前多目的トイレ	地域生活基盤施設:他事業にて整備、市庁舎耐震整備の一環としての位置づけであったが市庁舎耐震整備削除のため本計画より削除、地元との用地交渉が難航し事業期間中の竣工が困難なため、また宮跡にて文化庁所有の土地で別に駐車場スペースの確保ができたため削除。 高質空間形成施設:(仮称)橿原市観光交流センターとの合築により整備。			影響なし				
	提案事業		地域創造支援事業:緑化施設整備	事業期間見直しのため削除			影響なし				
新たに追加した事業		基幹事業	地域生活基盤施設:観光情報板整備、今井まちなみ交流センター広場・駐車場整備、昆虫館多目的広場 高質空間形成施設:橿原三号歩行者専用道路、耳成山公園トイレ 高次都市施設:(仮称)橿原市観光交流センター・観光交流センター、子育て世代活動支援、地域交流センター 既存建造物活用事業:東平田家改修事業 バリアフリー環境整備促進事業:橿原市移動円滑化基本構想策定			地域生活基盤施設:観光客数増加を図る。 高質空間形成施設:道路事業のグレードアップに係る事業。耳成山のふもとに来訪者の便益施設である多目的トイレを追加。 高次都市施設:駅前広場に面した交流拠点施設整備。 既存建造物活用事業:伝統的建造物を再生・活用しNPO等地域団体の活動を活性化させ地域交流の拠点に向け整備。 バリアフリー環境整備促進事業:バリアフリー等整備に係る基本構想策定。			まちづくりの目標達成に向けプラスの影響があるが、指標及び数値目標は据え置く。		
提案事業		昆虫館体験型研修施設等整備事業	観光機能の強化・充実化を図るため、県内唯一の自然史系博物館としてふさわしい体験型研修施設棟等の整備を追加。			観光客数増加に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。					
交付期間の変更		当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-			
		変更	-								

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	中心市街地のアメニティに対する満足度	pt	2.12	H17	3	H22	●	3.02	○	あり	市民の満足度等の評価を調査した結果、特に駅周辺の利便性や安全性に対して高い評価が得られた。八木駅南口の土地区画整理事業やみち再生事業等関連事業の実施に伴う交通環境の整備が評価された。	平成24年9月
指標2	駅南北の歩行者量	人/12h	8,500~10,000	H17	10,000~12,000	H22	●	8,000~9,500	△	あり	八木駅を南北に結ぶ通路(三号歩専用道路)が整備中。また、一部商業施設の閉店などが影響し通行量が減少しているが、駅南口の基盤整備等が進んだことで今後南北通行量の増加が期待される。	平成24年9月
指標3	観光客数	千人/年	229	H17	340	H22	●	320	△	あり	目標値に達していないものの、今井町や藤原宮跡などの環境整備と、提案事業を活用した地元活動の活発化の相乗効果により、事業地区内の各施設における観光客数が増加している。	平成23年4月
指標4	イベント参加者数	人/年	7,000	H17	8,400	H22	●	15,000 30,800	○	あり	イベント会場となる今井町や藤原宮跡における施設整備や、イベントの継続的实施とPR等により認知度が高まり、イベントの参加者数が増加した。	

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1												
その他の数値指標2												
その他の数値指標3												

4)定性的な効果発現状況

- ・本事業の実施に伴い、今井町や八木町において、地元NPOや住民等による歴史的環境・資源を活かした地域活動が活性化している。
- ・社会実験のコミュニティバス運行は利用者数も多く、社会実験終了後も継続的に運行している。
- ・イベント参加者に関連して、官民協働によるムーンライトin藤原京の実施において、地元住民の協力を得るなど、本事業の植栽広場整備等と相まって地元住民の気運の高まりとともに日数も増えイベント参加者の増員につながっている。
- ・昆虫館の体験型施設整備によって、子どもたちの学習の場としての利用が増加しつつある。

5)実施過程の評価	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
		都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載し、実施できなかった	
モニタリング	橿原市まちづくり交付金事業中間モニタリング調査	●	○	八木駅周辺の諸機能の整備が遅れており、中心市街地と周辺の歴史的・文化的拠点との連携をより強化するまちづくりの計画や、本事業の取組をより効果的にする計画を検討する。
住民参加プロセス	藤原宮への意識向上、周知に向けた地域住民参加による資源活用事業の推進	●	○	今後も地域住民参加による活動を進めるとともに、持続的な取り組みに向けた組織体制づくりを検討する。
持続的なまちづくり体制の構築	今井町、八木町における歴史的環境・資源を活用したNPO等地域団体の活動の推進	●	○	NPO等地域団体の維持・継続に注力するとともに、行政や専門家等との連携を強化する。



様式2-2 地区の概要

近鉄八木駅周辺地区(奈良県橿原市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 歴史文化を生かした賑わいのある交流拠点都市づくり 目標1: 魅力ある都市軸の形成 目標2: 歴史文化遺産を活かした拠点づくり 目標3: 安全で快適な歩行者ネットワークづくり	中心市街地のアメニティに対する満足度	単位: pt 2.12 H17	3 H22	3.02 H22
	駅南北の歩行者量	単位: 人/12h 8,500~10,000 H17	10,000~12,000 H22	8,000~9,500 H22
	観光客数	単位: 千人/年 229 H17	340 H22	320 H22
	イベント参加者数	単位: 人/年 7,000 H17	8,400 H22	30,800 H22

この図は、近鉄八木駅周辺地区の都市再生整備計画事業の成果概要を示しています。中央には、事業実施地域を示す地図があり、色分けされたエリアや特定の施設がマークされています。地図の周囲には、各事業の名称と、その成果を示す写真が掲載されています。

事業の種類と内容:

- 道路:** 権原三号歩行者専用道路整備、欽(傍駅前)通り線整備
- 高質空間形成施設:** 内装及びシェルター、観光案内板整備、昆虫館多目的広場、多目的トイレ整備
- 高次都市施設:** (仮称)権原市観光交流センター、観光交流センター、地域交流センター、子育て世代活動支援センター
- 地域生活基盤施設:** 観光情報板整備、市民生活支援センター、昆虫館多目的広場
- まちづくり活動推進事業:** 八木まちづくりネットワーク支援事業、藤原宮跡ネットワークづくり、コミュニティバス事業(社会実験)
- 既存建造物活用事業:** 東平田家改修事業
- その他:** 井戸の辻街角広場、今井町空家活用事業、小規模住宅地区改良事業、街なみ環境整備事業、広場整備(駐車場整備)、案内板整備

**まちの課題の変化**

- ・駅周辺の基盤整備や道路・広場等の整備により安全な空間の確保ができた。
- ・観光案内板整備による回遊性の実現により、今井町や藤原宮跡等への来訪者が増加した。
- ・NPO等地域団体のまちづくり活動の支援により、地域主体の諸活動促進の契機となった。
- ・今井町や八木町における歴史的建造物の改修工事の実施による観光交流拠点の整備促進や地域活動の活性化につながった。

**今後のまちづくりの方策(改善策を含む)**

- ・観光案内板の活用や、橿原市の歴史的資源や都市構造などを分かり易く情報発信するなど、周知普及を図る。
- ・NPO等地域団体が主体となった観光交流拠点施設の適切な維持管理を推進し、行政は支援を行う。
- ・駅南市有地活用について、社会情勢等により、民間活力の導入による施設整備等活用は厳しい状況であるが、引き続き拠点づくりの検討を図る。
- ・駅周辺など快適な歩行者空間を形成・持続・創出していくために、バリアフリー整備、公共空間を活かした緑地整備、また民地での緑化促進等を図る。